栗原市立栗原中央病院
広報誌　令和７年２月発行
編　集　地域医療連携室

病院の理念

わたしたちは、患者さまを第一に考え、いのちを大切にする最善の医療を行い、地域に貢献します

基本方針

わたしたちは、患者さまのことを考え、いのちを大切にします

1．市民から信頼される、安全な医療を行います
2．良質な医療を行うために、つねに新しい知識と技術を身につけるように努めます
3．地域のニーズに合った医療を提供することで、地域に貢献できる病院をめざします
4．地域の医療の中心として、ほかの医療機関との連携に努めます

新年のご挨拶

地域医療連携室顧問　副院長　木田真美

昨年は大変お世話になり感謝申し上げます。新しい年〝巳年〟が、皆様方にとって希望と成長に満ちた一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

これまで連携室で行ってきた活動を紹介いたします。①連携のつどい「よらいん」開催。よらいんってどういう意味？近寄る、一緒になる、立ち寄ることを誘うという方言。なんか暖かいですよね。地域の医療・保健・福祉・介護関係者を対象に、患者さんを取り巻く関係機関が顔の見えるシーンでお互いを理解し合い、より良い関係性を築くことを目的に研修会を開催しています。人気のあったテーマは、『高齢者虐待防止教育研修』『自分らしく生きる～緩和ケアの役割～』『どんな時もおいしく食べたい！～食事形態の工夫と飲みこみの方法～』『ギュッと詰まった事例発表～多様なケースでの連携スタッフの関わり～』『ついに我らの出番がやってきた☆糖尿病治療をワンチームで！！』などなど多彩で興味深く、いろいろな方が講師としてお話をして下さり、プチ演劇、質疑応答などで盛り上がってきました。今年もオッという企画でやりますよ！ご参加ください。取り上げてほしいテーマがございましたら、是非連携室までお声がけください。お待ちしております。②サロン deよらいん開催。毎月第２火曜日　14：00～15：30　中会議室。これはがん療養中の患者様・ご家族様・がん体験者様を対象に、我々医療スタッフと臨床宗教師の方が参加する平たく言うとお茶飲み会です。話したい事、世間話、モノづくり、季節にまつわる話や神話、昔話を題材にした講話などでひと時を過ごします。一人で悩んでないでお出かけください。

蛇は「**脱皮**」を繰り返し成長していくことから、我々も失敗や困難を経験しながら、新しい経験や学びを通じて自分を成長・再生させ、皆様と共に同じ方向を向いてさらなる前進を目指していきたいと思っております。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

部署紹介

【　外来・中央処置室　】

みなさんこんにちは。外来には総勢 36 名の看護師が働いています。専門的な知識・スキルを深めて仕事に取り組むスペシャリストと専門分野を特化しないジェネラリストがいます。今回は、期待される役割を発揮し現場で活躍しているスペシャリストの看護師にスポットを当て外来の紹介をさせていただきます。

外来師長　　野口　洋子

【INE（インターベンションエキスパートナース）】

渡邉　由香・深見　幸恵・菅原　奈保子

INE とは、IVR（画像化治療）でカテーテルを用いる治療や検査に関して、高度な技術と専門的な知識を有する看護師に認められた資格です。

当院は、2017 年 4 月に循環器内科が開設されたと同時に、心臓カテーテルが行われるようになりました。カテーテルを用いる検査や治療は、低侵襲でありながら手技は多種多様で、技術は複雑かつ高難度医療になるほど高度化しています。そのため、専門スキルや知識を深めて患者様に寄り添った看護が必要であると痛感し、INE を取得しました。

INE は、医師・看護師・臨床工学技士・診療放射線技師など多職種との連携をはかり、情報共有を行い、チームが一つとなって協力し専門的な知識を活かし、患者様の不安の軽減に努めています。また、治療の進行に必要なものを予測しながら準備し、患者様に対応していくことも大事な INE の役割です。

カテーテル検査・治療を受ける患者様が安心・安全・安楽に治療を受けられるようサポートし、私たち INE は、“カテーテル室で患者さんの一番の理解者でありたい”。　そして、チームと協力して「検査・治療してよかった」と思われるような質の高い看護を提供していけるよう努力していきます。

【がん化学療法士看護認定看護師】

高橋　寛子

がんの治療は日々進歩していて、聞き慣れない言葉や検査、治療方法がたくさんあります。自分に合った治療方法の選択や療養環境を考えていくことは、とても難しいことだと思います。治療を受けられる方や家族の方のサポーターとして寄り添いたいと思っています。がんサロンなども遠慮せずに利用していただければと思います。

【リウマチケア看護師】

菅原　尚美

リウマチ専門の医師が週 1 回リウマチ外来を行うようになり、このままの知識では対応できないと感じたため、専門的な知識を得たいと思ったのがリウマチケア看護師を取得するきっかけでした。

以前はリウマチを発症すると徐々に骨破壊が進行すると考えられてきましたが、近年では発症後数年で急速に骨破壊が進行することがわかっています。骨破壊が進行すれば患者さんの QOL（生活の質）が低下します。早期に治療が受けることができるよう、QOL を低下させることのないよう患者さんのサポートをしていきたいです。

【緩和ケア認定看護師】佐藤　麻美

緩和ケア認定看護師は、患者とご家族の QOL 向上を目指し、専門知識と技術を活かして質の高い看護を提供します。急性期医療から在宅、非がん疾患まで幅広いニーズに対応し、苦痛の緩和や終末期ケアを支援します。チーム医療の一員として、苦痛の緩和や終末期ケアに取り組むとともに、看護職者への指導や相談対応を行い、ケアの質向上に努めていくことも役割のひとつです。また、毎月第 2 火曜日には東北大学の緩和ケア医師とともに病棟ラウンドを行い、症状緩和やコミュニケーション支援、難渋症例への取り組みをスタッフと協働しています。診断時から終末期まで一貫して寄り添い、心の支えとなるケアを目指しています。

【日本糖尿病療養指導士】 加藤　美紀

２０２４年度より外来に所属となり、主に外来患者さんのインスリン指導をはじめとする療養指導を行っています。糖尿病治療において大切なのは、患者さんが現実可能かつ継続可能な治療の提案・療養指導だと思います。そのためには、医師だけでなく、チームで患者さんに関わり寄り添うことが必要となります。当院の糖尿病療養チームは職種の垣根なく、患者さん中心の治療を実現するために日々全力で取り組んでいます。

【栄養サポートチーム専門療法士】加藤　美紀・渡邉　由香

NST 専門療法士の役割は患者さんに快適な栄養療法を提供することです。そのためには、多職種で連携することが不可欠になります。定期的にカンファレンスを行い、チームで患者さんの情報を共有し必要な栄養を検討しています。外来での活動は少なく、主に入院患者さんを対象とし活動しています。

【感染管理（CNIC）】寺嶋　勉

「以前勤務していた病院では結核病棟や内視鏡室での勤務が多く感染対策に問題はないのか？と興味を持ち認定看護師になりました。」
「感染管理の役割は『専門的な知識と技術を用いて患者様、医療従事者、施設や地域の方々などを対象に感染のリスクを最小限に抑える』ことです。」昨今の現状を鑑み発熱外来担当を主として、受診される方々に分かりやすく感染対策の知識や技術について説明し感染の連鎖を抑えられるよう努めています。（2012.6～2012.11 日本赤十字看護大学フロンティアセンター「感染管理コース」）

【心不全療養指導士】澤邉　直美

心不全療養指導士は 2021 年度から、超高齢社会を迎えて心不全患者が急増している現状から、心不全の発症・重症化予防のための療養指導に従事する医療専門職に必要な基本的知識および技能など資質の向上を図ることを目的として日本循環器学会が創設しました。心不全の発症や重症化予防のため多職種との連携をとり、心不全治療のチーム医療の中心となるべき使命があります。
外来では検査結果を確認しながら、心不全手帳や血圧手帳などを駆使して、運動・服薬・栄養・生活（禁煙）指導を適宜行っていきます。循環器領域でのスキルアップをし、患者様・ご家族の QOL 向上のため多職種で連携し、院内のみならず、地域とも連携し心不全治療に従事していきます。

【日本 DMAT 隊員（看護師）】

澤邉　直美・曽根　温子・二階堂　理恵・伊藤　千秋

災害派遣医療チーム（DisasterMedicalAssistanceTeam）の看護師で、災害の急性期（約４８時間以内）に被災地で活動する医療専門家です。厚生労働省が実施する「日本 DMAT 隊員養成研修」を修了した看護師が４名配属されています。DMAT は主に災害時に冷静な判断力や豊富な看護スキル、また、危険な場面でも冷静に対応できる精神力が求められています。平時の診療が訓練になるよう、また DMAT 隊員として習得した技術が外来診療に還元できるように日々業務に従事しています。

【消化器内視鏡技師】

笹原　有美子・小野寺　真理子・佐々木　ゆかり・遠藤　良子・渡邉　由香・芳野　清光

消化器内視鏡技師は日本消化器内視鏡学会が制定した認定資格で、内視鏡に関する高い専門知識や技術を有していると認定する資格です。
内視鏡に関係する検査や治療の介助から機器などの準備・管理、物品の在庫管理や薬液の準備、患者へのケアなど幅広い業務を担当しています。
内視鏡は直接患者さんの体内に挿入しますので、確実な消毒・滅菌が必要です。飛沫・空気感染への対策も重要なため、感染管理も徹底し、スムーズに検査・治療できる環境を整え、患者さんにかかる負担を必要最小限にするようにしています。
また患者さんに検査の内容や手順について説明を行い、不安を軽減し、安全・安心な検査・治療ができるように日々、努めています。

紹介していただく先生方へ

病病、病診連携を積極的に推進していくために、他医療機関からのご紹介患者様の予約をお受けしております。ご紹介の手続きは、次のようになっています。

【外来診療の予約の流れについて】

受診希望日を忘れずにご記入ください

当院専用の「紹介患者受診依頼票」に必要事項をご記入の上、

地域医療連携室直通 FAX（0228-21-5336）に**診療情報提供書とともに**お申し込みください。

1. 当院担当医師と連絡調整し、予約日時を決定します。
2. 予約日時が決まりましたら、速やかにご紹介医療機関に FAX にてご予約の回答をいたします。
3. 「紹介患者受診依頼票」「診療情報提供書」を患者様に受診時に持参していただくようお伝えください。
4. ご予約の回答 FAX は、患者様控えになります。日時、持参する物などが記入されておりますので、患者様にお渡しくださいますようお願いいたします。

以下の診療科及び疾患は予約診療となります。

- 消化器疾患　・糖尿病疾患　・呼吸器疾患　・脳神経内科　・心療内科
- 血管外科　・甲状腺外科　・乳腺外科　・皮膚科　・腎臓内科
- 整形外科　・肩外来　・スポーツ外来　・眼科

【当日受診依頼の患者様について】

現在の体温、車番の記入もお願いいたします

1.「紹介患者受診依頼票」「診療情報提供書」「発熱当日問診票（平熱の場合も必要です）」を FAX 頂くとともに、**必ず電話連絡を**お願いいたします。

（地域医療連携室　TEL：0228-21-5335　　FAX：0228-21-5336）

2. 当院、担当医師と調整し、電話にて回答いたします。

※来院にあたり注意事項をお話いたしますので、患者様は待機いただき、注意事項をお伝え願います。

【編集後記】

新年あけましておめでとうございます。今年は巳年。巳年は成長と変化の象徴とされ、特に「転換の年」や「物事が大きく進展する年」として、古くから新しい可能性が開ける年と信じられ、発展や飛躍が期待されると言われているそうです。皆様の 2025 年が飛躍の年になるよう心よりお祈り申し上げます。

栗原市立栗原中央病院

〒987-2205

宮城県栗原市築館宮野中央三丁目１番地１

（代表）TEL：0228-21-5330

FAX：0228-21-5350

地域医療連携室

（直通）TEL：0228-21-5335

FAX：0228-21-5336

https://www.kurihara-central-hp.jp/